

◎開 会

委員長 ただいまから平成15年9月定例教育委員会会議を開催いたします。

◎議事録署名委員の選任

委員長 開会に当たりまして、本日の会議録署名人を檜山委員にお願いいたします。

◎議案の提出

委員長 日程に従いまして議事を進めてまいりますが、本日の議題は議案1件及び報告等5件となっております。

◎議案第34号

委員長 初めに、議案第34号「松戸市立博物館協議会委員の委嘱について」を議題といたします。

どうぞ事務局からご説明ください。

博物館次長 博物館でございます。よろしくをお願いいたします。

それでは、議案第34号「松戸市立博物館協議会委員の委嘱について」の提案をさせていただきます。

提案理由でございますが、博物館協議会委員の任期が、平成15年9月30日をもって満了となります。そのため、松戸市立博物館条例第8条第2項の規定によりまして、別_____紙

次のページでございますが、松戸市立博物館協議会委員委嘱者名簿のとおり委嘱をするものでございます。

任期は、平成15年10月1日から平成17年9月30日までの2年間でございます。

委員の方の委嘱でございますが、学校教育関係者から2名、社会教育関係者から2名、学識経験者から5名、計9名の方に委嘱を予定しています。

なお、委員区分、社会教育関係者で、松戸青年会議所から推薦いただきました小沼弘明さんにつきましては、今回から新たに委嘱をさせていただきますが、他の委員の方につきましては再任でございます。

以上、提案をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

お聞きのとおりでございます。その資料の表をごらんいただきますと、新任の方は、その委員の区分では社会教育関係者ということで、新たに松戸青年会議所からご推薦いただきました小沼弘明氏を推薦されてまいりまして、ここにご提案申し上げますので、何かご質問ございますか。

ここはあれですか、青年会議所からいつも恒例的にというか。

博物館次長 はい、ご推薦いただいております。

委員長 前任者もそういう。

博物館次長 はい、そうでございます。

委員長 お差し支えない範囲で、小沼さんはどういう方ですか。

博物館次長 この方なのですが、今は青年会議所の副理事長をされております。

非常に若い方で、博物館の経営感覚についても非常にアドバイスを期待できる方でございます。ご推薦をいただきました。

委員長 いかがでございますか、何か。

それでは、ご質疑がないようでございますので、討論もよろしゅうございますか。

それでは、採決をさせていただきます。

議案第34号につきましては、原案どおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 ご異議がないものと認めまして、議案第34号は原案どおり決定いたしました。

きょうお諮りいたします議案は以上でございます。

◎報告等

委員長 それでは、引き続いて報告の方に入らせていただきますが、まず最初は、「平成15年度に実施する教育改革事業について」ということでございますが、それをお願いしたいと思います。

ご説明をお願いします。

生涯学習本部審議監 平成15年度に実施する教育改革事業ですが、まず1つは、「サタデーコミュニティスクール事業」、趣旨はそこに書いてあるとおりです。

私どもが公募しましたところ、10名の方から申請がありました。内容、企画書を十分読ませていただきまして、その上に立って面談を1人ずつ、小1時間にわたって行いました。

その結果、最終的には(3)に書いてございますが、梨香台小学校を設置場所といたしまして、「地域ふれあいわくわく学習」ということで、宮本勉様にスクール長をご依頼しているところでございます。

それから、もう一つは、殿平賀小学校を設置場所としまして、「アラウンド・ザ・ワールド」ということで、数井多美子様をお願いしています。

決定後も、今まで2回から3回事前面談をいたしまして、それぞれ準備をスクール長を中心に進めているところでございます。

開校日時ですが、10月11日をめどに準備をしているところですが、スクールによりまして、若干おくれるところも出てきているとのことです。それは何かといいますと、地域にある既存の子供育成団体的なものとの整合を、どうかかわって、どう地域コミュニティとして進めていくかという、より念入りな打ち合わせをやられて、その結果を私どもに、報告に来ているところでございます。

また、9月25日に、この内容については改めてホームページ、または広報で知らしめていきたいというふうに考えているところでございます。

事前協議などを今聞いているところですが、お2人とも大変意欲的で、本当に楽しみなどころでございます。

それから、2つ目といたしまして、「豊かな心を育む市民フォーラム事業」、趣旨はここに書いてあるとおりですが、内容といたしまして、「子供の変化に対応した地域づくり」というテーマのもとに、千葉大学の明石要一先生からご講演をいただきます。

このご講演の前に、事例報告を考えています。学校・家庭・地域からの事例報告ということで、現在お話を進めていますのは、父親から子供にどうかかわっているかということで、現在、六実中学校の父親の会に依頼をしているところでございます。ご快諾をいただいています。

それから、もう一つは若い人なのですが、鈴木さんという方なのですが、その方が毎月1回、地域の子供を公園に招集をかけて一緒に活動をしているというような実践を耳にいたしましたので、ご依頼しましたところ、やはりご快諾をいただいています。

それから、もう一つは、市立松戸高校の卒業生になりますけれども、国際人文科卒業の女性ですが、その方が小学校、中学校、そしてさらに高校でこういうことを受けてきて、現在

こういうふうに活動しているというような一つの流れで話ができるかなということを、当時の担任の先生の方からお話を伺っているところでございます。

それから、講師の先生とも連絡がとれまして、きのうの時点で最終的にまとまりましたので、パンフレットをつくりまして各学校にも、保護者の方、あるいはまた教員、また私どもの関係団体等にもご案内を申し上げたいというように、こう考えています。

期日は、10月4日10時から考えています。

なお、当日の進行役ですが、先ほどのサタデーコミュニティスクールのスクール長に依頼しています。このスクール長2名の方で、自分たちのスクールも、どこかに支援を兼ねながら、啓発活動も兼ねながら進行をしていただくような形を現在とっているところでございます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

先生方の方から何かご質問はございませんか。

瀧田委員 「地域ふれあいわくわく学習」というタイトルでなさるのでしょうけれども、内容について、大体の方向性みたいなもの、また、次の「アラウンド・ザ・ワールド」というもので、何を主体としているのかというのはありますでしょうか。

生涯学習本部審議監 「地域ふれあいわくわく学習」につきましては、この先生は高塚新田に在住ですので、高塚新田にある自然環境を中心にして体験学習を主にしていきたいという内容でございます。

ここには、東部子供祭りという組織がありまして、そことどう融合、または連携を図る中で、より子供のためになるかというものを今は模索しているというところでございます。

それから、「アラウンド・ザ・ワールド」は、大きな目的としまして、これは小金北中が中心になりますが、自分たちの地域の中から1回外に出ようということで、「アラウンド・ザ・ワールド」で、アメリカ文化とか、そういうものにも触れながら、また新たに地域に戻って、自分たちの地域というものはこんなにすばらしいんだなということを実感、体感させたいというようなことになっています。大まかなところはそういうところです。どちらにしましても、子供を主に置いた活動、企画が示されていました。

瀧田委員 ありがとうございます。

委員長 基本的には、ここの「サタデーコミュニティスクール事業」の事業の趣旨というところにありますように、松戸市版の教育改革の視点の一つとして、「学校を拠点とした地

域のコミュニティづくり」と、そういうことに、これを核心に置いたいろいろな事業展開、それが、ここに2つ出ている「豊かな心を育む市民フォーラム事業」、これは前にも説明を受けましたし、我々としてもいろいろ議論をしたところですが、要するに、いわゆるチャータースクールと違うということです。やはり地域の子供でしょうかね、子供を中心に、さきの審議監の方のご説明では、それと、それに地域の人にできる限り参加してもらって、体験学習的な形で地域、子供、結局、地域コミュニティというものをどういうふうによく活用していくかということですね。

教育長 一連の教育改革、それも含めての全体的な流れの中で、明治以来続いてきた公立のいわゆる学校、官製版の学校だけではなくて、いろいろなタイプの学校があっただけのべきだというふうな、チャータースクールとかコミュニティスクールだとか、将来的にはそういう官製版でない地域密着型といいましょうか、地域住民による地域住民のための、地域の子供たちのための学校が一つや二つあってもいいのではないかと、そんな発想も根底には、まだまだささやかなスタートですけれども、そんな研究、実践を通していろいろな研究をする。こういういきさつのお話ですけれども。コミュニティスクールというのは北欧型、自分の地域に自分たちの学校をつくるべきだと、それで企画立案をして、市なり県なりに申請を出す。そして、これならば大丈夫でしょうということになると、予算を出して。まあ、自己責任の世界ですから、失敗したらすぐカットですよという話になっている、これは北欧の話ですけれども、それは日本でどういうふうに着地するかはわかりませんが。

サタデーコミュニティスクールといいますと、野田市が行っている完全週5日制に伴う土曜日の子供たちの居場所というのですか、学力低下問題やら、あるいは自然体験、社会体験を土曜日にさせようではないかと。野田市の場合、完全な官製版、学校に希望する児童・生徒が行って、そこで市が雇用した非常勤講師、あるいは地域の民間人、外部講師等を市の予算で土曜日に学校を開放する、そういう方向へ。これは膨大な予算もかかってくるようですが。そういうタイプをすぐ思い浮かべてしまうのですけれども、松戸市のもは名前は同じでもそうではない。やはり地域住民による地域のコミュニティ学校、そういうところは違うわけです。今後どういうふうに着地するかは……。

委員長 野田市の場合、あれはかなり学習補修的な要素、学力低下ということに対応する。そして、体験学習的に地域の人々のこういうアイデアとか、活動を生かして、そして地域の子供をどう育てるかということですが、そこに今入っている。ただ、ここにうたっていることは、教育改革国民会議で提唱された新しいタイプの公立学校「コミュニティスク

ール」の本市における実現可能性を探る、これはかなり遠大な目標ですね。要するに、あれははっきり言えば公設民営型というやつでしょう。それをどう目指すかということだから、それとはまだまだ、これは大分差があつて。

ただ、遠くの目標として、そういうものを設定しておくことは非常にいいことです。例えば単なる一時的な体験学習とか、いろいろな思いつきでやるのではなくて、やはりもう少しシステムとかで、体系的な教育的な見地から、そういうものも考えているという。それから、アランダムではないよという、それはやはり大事な視点だと思います。そうでないと、単なる思いつきで……。

教育長 この宮本さんという方は、私は知らないんですけども、企画書なんかを読んでもしっかりしております。実践だけではなく、学際的研究も何年も大学と連動しながら続けてきた方なので。

あと、スクール長に10人応募されたという。なかなか捨てがたいいい企画もあったんですけども、ちょっとカルチャーセンター的な部分が色濃いものですから、この趣旨とはちょっと違うから、来年さらに企画を練って再チャレンジしていただくという。

委員長 出発点としてはこれでいいんだろうと思いますけれども、やはり何か、ある形が整っているような、あるシステムというか、何を確信しているかということ。なかなか難しい……。

あとは、2つ目の方は、これは継続的に何かしていくわけですか。フォーラム。

生涯学習本部審議監 毎年は考えていません。まず、ここで一番私どもが探っていきたいなと思つていましてのは、地域なり、家庭なり、もちろん学校も含めてですが、教育を真剣にみんなで一緒に考えてみたいということの啓発として、第1回目を思つています。

ですから、このことによって、ある連動した動きが見えてきた時点で、またさらに何か深まる形では考えていかななくてはいけないなと思つています。

ですから、これを一つのイベント形式に、毎年1回とか、そういうふうには今のところは考えていません。

教育長 でも、これもイベントの一つでしょ。

生涯学習本部審議監 そうですね。

瀧田委員 毎年ではないということですね。

教育長 イベントたき木論というのがあつた。火つけ役ですか。

生涯学習本部審議監 火つけ役です。

教育長 一過性の打ち上げ花火で、どんと花火が上がって、それで終わりというのではないですね。火つけは火つけでも仕掛け花火。

生涯学習本部審議監 そうですね。

教育長 そういったフォーラムが広がっていく。

委員長 それがないと意味がない。広がるんだったら何か広がっていかないと。

生涯学習本部審議監 その辺について、また私どもも十分な評価をやった後、評価を重ねて、また今後の対応を考えていきたいと思っています。

委員長 大事ですよ。掘り起こして、広くそういうものが浸透していくということになれば。

檜山委員 このコミュニティスクール事業も、市民フォーラム事業も、これは1人でも多くの市民にわかりやすく理解してもらおうということが大事だろうと思うんですね。周知徹底方法で、市民への周知というところで、広報まつどとホームページと書いてありますが、その辺のもう少し具体的な努力といいますか、とにかくわかりやすい表現ということはいかがでしょうかね。

生涯学習本部審議監 ぜひしていきたいと思います。

なお、この両名のスクール長さんは、設置場所が両校になっていますので、そちらの校長さんとも、私どもと一緒に面会する中で、学校を通して校長さんに見てもらった上で自分たちのスクールのあり方、特徴等をプリントで知らしめていきたい。ですから、子供たちにも配布願いたいといったら、両校長とも、それは私たちも積極的に協力しますというような、一つは設置場所が基準、核になる形で、どう広めていこうかというのは、スクール長さんも今工夫しているところでございます。市民フォーラムの方も、パンフレットができ上がり次第、学校へも協力依頼していきたいと思っていますし、一応、この前の校長会の方でも、各校できれば二、三名参加をお願いしたいということで、そこからまた広がっていければいいなというふうに考えています。

このときはちょうど松戸まつりなんです。あそこの近辺がかなりにぎわいますので、私どもも看板を掲げる中で、市民の方もそれを見て入館していただけるということを一つの期待として持っているところでございます。

檜山委員 各事業の目的がはっきりと、わかりやすく説明できれば最高だろうと思いますね。

生涯学習本部審議監 はい、わかりました。

委員長 サタデーコミュニティスクールですけれども、梨香台小学校、殿平賀小学校、その学校の生徒だけですか。

生涯学習本部審議監 そうとは限りません。これも、スクール長がどう企画するかによって、その近隣も、例えば梨香台小学校の方は東部小学校も視野に入れていました。

委員長 そういう、多少周辺の、少し広域化した方がいいような気がしますよね。

生涯学習本部審議監 ここに、設置場所に来るまでの安全の確保ということもやはり必要になってきますので、無尽蔵に広げるのではなくてというような案を持っています。

教育長 一つの期待する事例として、このフォーラムの話ですけれども、一般市民の方がこういうものに参加して触発させていただくのがフォーラムなんですけれども、仕掛けとしては、できればっていうのを、役員さんが何かあったときに、このフォーラムの精神と運動を家庭教育学級の中から継承して発展させていければ、火がつけば、これはできないことはない。そうしたら毎年、このフォーラムという、イベントが目的のイベントではなくて、この成果をお互いに持ち寄って、1年ごとに確認し合おうではないかということで盛り上がるのが最高の成果だというふうに思います。行政が音頭をとらなくても、自分たちで1年間、更に展開していくんだと、そんなことを実は期待しているんですけれども。難しいですけれども。

委員長 サタデーコミュニティスクール、新しい試みですからね。これの成果をどう評価していくか。そうしないとつながっていかないから、そこら辺のシステムをまた考える必要がありますね。

先へいってもよろしゅうございますか。

それでは、2番の生涯学習基本計画について、これは（案）ですけれども、まだ（案）の段階だけれども、途中経過的な意味も込めまして、これから先の見通しもあるんだけれども。

基本計画につきましては、ちょっと私の方から申し上げておきたいことがあります。

報告の2番目の「生涯学習基本計画（案）」についてなのですが、これにつきましては既に委員の皆様方には報告の③、④につきましても、これは市民懇話会の提言を受けての詳細な「アクションプラン（案）」並びに「教育資源の有効活用（案）」につきましては資料を事務局からお配りさせていただいていると思います。お目通しいただいていると思いますが、本日はこれらの基本となります「生涯学習基本計画（案）」の概要、それから報告③の「アクションプラン（案）」並びに報告④の「教育資源有効活用実施計画（案）」について、若干の報告を事務局の方からまとめてお願いします。

生涯学習本部審議監　　今、委員長さんからありましたように、大体お読みいただいていると思いますが、改めて報告させていただきたいというように考えています。

この生涯学習基本計画（案）につきましては、まず、策定に当たって、背景、その他を見たときに、現代社会の社会的変化が激しいということ、あるいは、教育についても多種多様なニーズ、また課題がある。そういう中で、国自体も教育改革の方向が多種多様な形で、出てまいりました。

そういう出てきた中で、松戸市の社会教育なり、また学校教育の課題等を考えた場合に、松戸市も安穩としてはいられないというところで、平成13年6月に教育長の諮問機関として、先ほどありました松戸市教育改革市民懇話会を設置していただきました。そこから最終報告をいただいて、私ども教育委員会として、それを受けてどういう理念のもとにいくかというところで、まず理念の確立をいたしました。

この理念は、私どもは6つ考えています。ちょっと長くなりますので省かさせていただきますが、6つ理念を持ちました。

その理念に基づいて、それではこの改革を進めるに当たってどういう方向が大事かということで、方向性も3つ持ちました。みずから変化をつくり出すということとか、また、個に総合的に対応する。今までは1対1の対応が非常に多かったわけですが、やはり総合的な対応をしていかなければ、課題やニーズに対応できないのではないのかというところが方向性の一つです。

それから、新しい公共の観点に立って全体を見なくてはいけないだろうということで、3つの方向性のもとに、松戸市では教育改革の全体構造といたしまして、懇話会からいただいた提言をもとに、具体的にそれを施策におろすにはどういうプランが必要かということで、まず4つのプランと、それから3つの基盤となるプランを考えたところでございます。

特に、4つのプランにつきまして、教育改革のアクションプランの方に、それらもだんだんと具体化させる、実現化するために、松戸市としての教育改革のあり方と内容を明確化したところでございます。

それらの一つ一つの事業につきましても、先ほど来、私どもの各事業につきましても評価が大事だということをご指導いただきました。そういうところで、この施策を進めるに当たって、また新たに3つ視点を持って取り組んでいこうとしています。

1つは、PDCAのマネジメントサイクル、プラン・ドゥー・チェック・アクション、このマネジメントサイクルで一つ一つの施策を見ていかななくてはいけないだろう。

それから、サンセット方式、できたから、もうずっとそれを継続的にやっていくのではなくて、ある時期限定をして、評価を通してどうなのかということを見直すというようなサンセット方式。

また、先ほどちょっと触れました3つの区分の中の基盤となる3つのプランですが、区分を超えた資源の配分も考えていかななくてはいけないだろうと、そういうような施策の進め方を今後していこうというところを、この基本計画の中での示しているところがございます。

なお、アクションプランなり、また有効活用については、室長の方から、概略な説明になるかと思いますが、お願いします。

企画管理室長　それでは、ただいま審議監の方から出ました生涯学習基本計画を大きな柱としまして、私どもの方は具体的な作業に取り組んでおるところでございます。その一つがアクションプランという形になろうかと思いますが、まだまだ矯正すべきところが多々ありますので、細かい説明は控えさせていただきたいと思いますが、いずれ皆さんのもとにお話できる機会があろうかというふうに思っております。

そこで、アクションプランにつきましては、基本的な冊子の構成をまずお話をさせていただきたいというふうに考えております。

まず、1番目といたしましては、このアクションプランを策定するに当たっての基本的な考え方、理念、方針的なものを第一に入れたいというふうに考えております。

次に、全体計画、全体構造、年次計画等々につきましても、2番目として盛り込んでいきたいというふうに考えております。

大きくなりますけれども、それではそれを受けまして、総合的な施策としてどのような施策が出るのかということ、細かくうたわせていただきたいというふうに考えております。

総合的な施策でございますけれども、第1番目としましては、学校づくりを支援するようなプランが必要ではなかろうかというふうに考えております。それにつきまして若干、考え方、こういうようなものだということをご説明させていただきたいと思いますが、

例えば、今申し上げました学校づくりを支援するプランといたしましては、それぞれの学校が特色あるような学校づくりをしていかななくてはいけないのではなかろうかということで、学校づくりを支援するプランという形で、いろいろなスタッフを派遣していく事業をここでは考えております。

それから、先ほど申しました新しい教育システムをつくるプランというのが、今回出てお

りますサタデーコミュニティスクール等々が当たるのではなかろうかなというふうに思っております。そういうようなつくり込みをしていきたいというふうに考えております。

それから、次に、家庭と地域の教育力を支援するプラン、これは先ほど2番目のところで、フォーラム的なことで申し上げましたけれども、心の教育というようなものを主体として、家庭と地域、そして学校が結びつくようなプランを考えているところでございます。

それから、4点目には、新しい教育連携をつくるプランというふうな形を考えております。これは、やはりコミュニティというものが重要な問題になるのかなというふうに考えております。コミュニティを含めまして、例えば大学との連携とか、ボランティア活動との連携とか、そういったような形、あるいは情報センター関係の新しい分野についての取り組み等々が考えられるのではなかろうかなと思っております。

そういったような大きな柱に基づきまして、アクションプランを今後詳細につくってきたいというふうに考えています。

それから、次に、教育資源の有効活用というところでございますけれども、これは非常に私どもは今苦勞しておるところでございます。端的に申し上げますと、松戸市の資源というものは相当な資源がございます。今の子供たちの数からしますと随分昔になりますけれども、倍以上いた時期もございました。そういった時期に、いろいろな、学校とか、施設等々がつくられてきたわけですが、現在となりましては少子化とか、かなり子供たちの数も減っております。

しかし、子供たちの数は減っているとはいいいながらも環境も変わっておりますので、いろいろな形で教育界も変わっていかなくてはいけないのではなかろうかということ踏まえまして、有効活用的に教育施設を考えていきたいというふうな理念のもとに、教育資源の有効活用の考え方をとらえております。

そして、この実施計画書の策定に当たります構成でございますけれども、その教育資源の有効活用といたしまして基本的な考え方の話をさせていただきまして、その次に、先ほど申しました少子化等々の問題もございまして、適正規模、適正配置の学校というものを考えていかなくてはいけないのではなかろうかということで、そういった考え方を付け加えたいというふうに考えております。それをもとにしました実施計画を考えなくてはならないのではなかろうかと考えております。

それと、あとは大きな第3番目になりますけれども、学校の選択制とゾーン制というものを考えていかなくてはならないのではないかとこのように考えているところでございます。

それと、最後になりますけれども、そういったような背景に今後取り組むために、これまでにどのような取り組みをしてきたかということ、最後に参考として構成をしまして、冊子にさせていただければというふうに考えております。

非常に雑駁でございますが、ご説明にかえさせていただきます。以上でございます。

委員長 基本的な考え方はいろいろ今説明され、かつ資料は拝見して、これからもう少し具体化、それをもう少し明確にしていくことだろうと思います。

一番難しいというか、微妙な問題を含んでいるのは、そういう教育資源の有効活用ということでしょうかね。これは、相当いろいろ波紋を広げるだろうし、そういういろいろな手順も大変難しい問題を含んでおります。ただ、避けて通れない問題でしょうけれども。

今の少子化ですか、これは高等教育の方も随分深刻なんですね。かつて205万人いた18歳人口が120万人まで落ちますからね。そうすると、もう2008年、2009年ごろになると、倒産大学がばったばった出るだろうと。しかしこれ、俯瞰的な計画からいうと、さらに義務教育段階の方が先に進んでいくでしょうから、そこら辺の対応というものは避けていけない問題だろうと思いますけれども。

檜山委員 先日いただきまして、自分も読ませていただきました。特に、松戸市生涯学習基本計画、非常に内容も立派に、将来を見詰めた計画ということで、よくできているものと思います。

さらに、アクションプラン、それから資源有効活用実施計画、こういうものも市民懇話会の提言を受けて、十分、内容が充実したものになっているかというふうに思っております。

ただ、まだ議会の対応ができていないというところで、その辺もクリアされて、今後またもう一度、この委員会に実質的にかけていただいた方がよろしいかなというふうに思います。

委員長 今、檜山先生がおっしゃいましたように、基本的に具体化して実施に当たりましては、やはり教育委員会もしっかり議論しまして、そこで教育委員会の方針として決まった形のを具体的には進めていただきたいと思います。

本部長 本議会中に全員協議会を開いていただきまして、そこで説明をさせていただきます。計画の中では来年の4月に――実質的には年度末からというようものが具体的には――入

っております。次回の教育委員会についてはもう一度お気づきの点等につきましてご指摘をいただきながら、実質的なご審議をいただきたいと思います。

教育長 こういう行政計画にしる、教育計画ですか。そういう策定、提案というものは議会の議決というのは特段必要とするものではございません。ただし、その計画を実行してい

く段階でのそれぞれの予算案を出して、それが否決されるか、採択されるかというのは、議会の絶対の権限です。その意味でしっかりとご理解をいただく。そういう意味で誠心誠意、我々も説明責任を果たしていくと、こういう考えです。予算の伴わないものは絵にかいたもちになりますので。

委員長　それから、やはりその地域、そこら辺のよく理解を得ないと、進むものも進まないということになってしまいますから。

教育長　適性規模、適正配置につきましては、資源の再配分的な考え方の2つの側面を持っていますから、適正規模を保ち、市内に適正に、学校は過不足なくあるというのが硬貨の裏表だとすると、裏には教育資源の最大限の有効活用を図る、そういうことも当然、市民の側から求められている政策じゃないかと。硬貨の裏表で計画を実施していく、こういうことでございます。統廃合、効率化するだけが強調されると、非常に誤解を招くんじゃないかと。

今3万7,000人ぐらいですか、小・中学校の児童・生徒を合わせて約2万5,000人の約1万2,000人ぐらいです。昭和56年から昭和60年にかけてが、小学校、中学校のそれぞれのピーク
——タイムラグはありますけれども、ピークになっていまして、そのときには双方合
——せ

ても小学校が5万人を超えている。中学校も2万五、六千人、双方合わせて8万人近くあった児童・生徒数が今はその半分以下の、45%ぐらいになっている。それだけならいいですが、アンバランスが生じておりまして、大規模校すぎるといふ学校がある——昔の大規模
方——校

といったらこんなものではなかった。1,600人ぐらいは常識だっというところもあり、30学級を超えて、もう、マンモス校の解消というような時代もありましたけれども、今では単学級の、1年から6年まで単学級というような学校も出てきておりまして、学級担任と学年主任が兼務しなければ、それはそうですね。異学年交流といっても、いろいろな意味で、いい側面もあるけれども、アンバランスになってきている状況も生まれてきている。ある一定の規模の学校でないと、単に授業を、勉強を教えて時間が来れば帰すということではありませんで、朝、朝礼から始まって昔でいうホームルームとか、学級活動とか、部活動とか、いろいろな面でトータルに生活の場といったら言い過ぎかもしれませんが、勉強するだけではなく、一つの生活の場としての機能を持たせられていく。そんなことからしますと、やはりある程度の規模で、ある程度の集団教育の効果を期待する。それを維持していく、追求していくためには、一定以上の規模が必要であろうと。

一方、適正配置の部分では、道路一つ隔てて隣り合わせにあるような学校、もう人口急増期ですから、ぜいたくは言ってもらえません。とにかく空いている土地があれば、貸してくれ

る人がいれば、売ってくれるところがあればということで建ててきてしまったので、ちょっとアンバランスになって、将来人口がふえる地域もあるでしょう。そのところには学校がないではないかという、遠くまで行かなければならなくなるというようなこともある。そこには新しく学校を建てることも将来計画の中に含まなければいけないという意味で、スクラップト・アンド・ビルド、ご理解いただくには大変な労力がかかると。その労力を惜しまずにやっていきたいと。

まちづくりの基本理念といますか、戦略、国家戦略になるかもしれない。少子化に歯止めをかけて、人口構造のバランスを保っていくというのが国家戦略だろうというふうに思います。減ったからどんどんつぶしていけばいいではないかという発想は短絡的過ぎると思います。余りにも一自治体としては重過ぎる話でございまして。出生率は、全国レベルで1.3ぐらいでしょう。1.53ショックなんて言われたのが、つい10年前ですけれども、もうショックから10年も減り続けているので、本当はショック死していなければいけないような状況まで出生率は低下していると。

松戸市は調べてみると1.3人までいっていない。ただ、人口の流動性が高いですから、入ってきて、出ていって。その中で子供の数が出生率よりは低下していない現象がある。これがいつまで続くのかという保証はない。そこまでは教育委員会の手に負えない話なものですから、すみませんが。

委員長　でも、松戸市はいい教育をしているよということになれば……。

教育長　ちがうかもしれませんね。頑張ります。

委員長　これはいろいろなプラン、これからもっと具体化してくることになるんですけども、いつも申し上げて、これは私の思い込みですけれども、やはりこれは何というのですか、教育支援ということで、さっきおっしゃったのだけれども、支援スタッフというのか、やはりいい教育をするというのは、きめの細かい、子供の個に応じた、よく言われているように習熟度別というのですか、あれはもう全国でも6割ぐらいに広がっているわけで、やはりあれを目指していくということが一つの、学校づくりを支援するプラン、子供いきいきアシストプラン、その具体化の一つに、それをやはり視野に入れていただきたいと願っておりますが、それで結局、それは端的にいうと人的支援というか、今の問題は学力低下とか、それから非行の問題、不登校とか、結局、学校がわからないということが根本ですよ。それから、やはり子供が無気力になって、また非行が強盗になって爆発すると、例の12歳の子供が幼稚園児を殺した。本当に凶悪で、びっくりして言葉もなかったわけですけれども。

いずれにしても、ただ一方、不登校は減っているという統計は出ていましたね。ですから、これは現場の先生方の努力で、だんだんそういう方向に向かっていると思うのですが、同時に地域の協力がどうしても必要ですよ。そういう不登校が減っている反面、年少の子供たちの非行もまた非常にふえているわけでしょう。特に殺人とか、強盗なんかは、全国で1,000

を超えるぐらいあるんです。ですから、そういう悪い面も進んでいるし、そういう芽を摘んでいくというのは、学校でいい教育をしてやるところに尽きると思いますよ。今までの40人学級なんかですと、どうしても下は切り捨てられてしまうから、ですからその辺の子供たちが落ちこぼれない教育をしてやる必要があるし、一方、それではそういうきめ細かく一々やっていると、上の子は足踏みですから、これは学力低下になります。だから、そういう子供には発展的な学習ができるとかね。それにはやはり手が要ります。ですから、そういう学校の支援スタッフの派遣とか、それは市が自前でやはり頑張っていくよりしようがない、国はなかなかそういう学級編制の基準というものは変えないわけだから、だからその辺もぜひ視野に入れて努力していただきたい。

それでは、先ほど檜山先生から申し上げたとおり、また具体化してくるプロセスの中では、ひとつ委員会の会議にかけていただいて、それで具体化をひとつ進めていただきたいというふうに思います。

先生方、そんなことで、よろしゅうございますか。

それでは、報告の5番目にいきましょうか。

松戸市立博物館開館10周年記念特別展、「川の道 江戸川」の開催について。

博物館次長 博物館ですが、ちょうどことしで開館して10年を迎えます。それと、市制施行60周年をあわせまして、記念特別展として、「川の道 江戸川」を開催いたします。

開催要項のとおりでございますが、会期は、10月11日から11月30日まで、計44日間を予定しております。

また、この開催に当たりまして、国土交通省の江戸川河川事務所に多大なるご後援をいただいております。

また、市内を走っております私鉄線、新京成電鉄、総武流山電鉄、東武鉄道、北総開発鉄道にはポスターの掲示をお願いいたしまして、ご快諾をいただいて、これからご協力をいただくところでございます。

また、展示の構成でございますが、川の移り変わりから、江戸川誕生以前、現在の江戸川

まで7つに分けまして構成を考えております。

あとは、主な展示資料でございますが、ここへも記載してございますが、実物で約90点、それ以外に写真等の展示を予定しております。

また、この中で関連の行事でございますが、この期間中に特別展の記念講演会を2回、また、江戸川歴史セミナー、連続講座として4回を予定しております。

また、この期間中にも、展示の説明会も日曜日には予定しております。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。何かご質問ございますか。

教育長 学芸員はどなたですか。

委員長 せっかく来ていらっしゃるのだから、何か一言。

教育長 コンセプトを。

博物館学芸員 コンセプトというか、展示資料の中の目玉は、高瀬船の5分の1という縮尺の模型です。5分の1でも長さ5メートル。ですから、本物の高瀬船は25メートル以上。

委員長 そんなにでかいものですかね。

博物館学芸員 高瀬船は、大体今申し上げたサイズでお米800俵から550俵、30トン以上50トンくらいまで一度に運べると。しかも、構造的には江戸川と利根川に行くのですが、当時、浅間山の噴火で川の底が非常に浅かったということがあって、今の申し上げた数量を運ぶにしても、たった1メートルの水深であれば十分運べるという高瀬船の模型が展示されます。

今はほとんど、市民の方は河川ゴルフをしたり、散歩をしたり、ジョギングをしたりというようなことで、余り直接的にはかかわりが少なくなっているとは思いますが、江戸川ができて大体350年ぐらしかたっておりませんが、江戸時代から明治、大正ぐらいいまではかなり、水運の道として、物流の大動脈として、関東の内陸部を結ぶだけではなく、銚子の河口からは東北、北海道まで船が繋がっていたと、そういう物流の大動脈を江戸川が担っていたということを理解していただけたらと思っております。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

教育長 今の松戸市よりもよほど大都市であって、経済的自立を果たしていた。

博物館学芸員 というか、松戸市はいろいろなところの中継基地なんです。水戸街道の宿場町、それから江戸川にも河岸場があって、松戸河岸があって、水陸の本当の要衝なんです。

それはもう更級日記の平安時代から変わらずに、ずっと立地の中であって、そういう物流の中継基地として非常に栄えたんだということで、現在のような住宅都市ではなかったと。

関東地域は、ある意味で徳川の、将軍家の広域的な領地という意味で、それぞれ旗本領、大名領なんかはありますけれども、むしろ民間レベルではそういうものは余り関係ないと。物流としては関東一緒にまわっています。そういう中の結節点の重要なポイントに松戸は置かれています。

檜山委員　これは、江戸川の現場は会場にはならないのですね。

博物館学芸員　現場を会場とする水上バスの体験乗車というか、そういうことを考えたのですが、今は水上バスが上ってこなくなりまして。ですから、あとは、河川事務所さんをお願いして船を出してもらおうことしかないのですけれども、しかし、今の江戸川は江戸時代以上に浅瀬が多く、水上バスぐらいの水深で走る船ならいいのですけれども、河川事務所さんの持っている船では、とても危なかしくって座礁してしまうということで、企画を断念しました。

教育長　僕が子供のころは、砂とり船が行ったり来たり、しゅんせつして、一定の深さは保っていた。

博物館学芸員　川ざらいはしょっちゅうやっていたのですけれども、もう船が通らなくなりますと、ある意味で放っておかれてしまっているのです。周りの降水対策、予防策で、連続の高い堤防、さらには今のスーパー堤防ですか、そういうものはやるのですけれども、川の底自体は今余りいじっていないのです。

委員長　昔は松戸から銚子まで行っていたの。

博物館学芸員　銚子まで行っております。銚子からというか、途中の土浦とか、霞ヶ浦、それから北浦の銚田、そこから水戸藩の船が出るのですけれども、それが松戸の河岸でちょうど中継するような地点に設定されているんです。上流は群馬県の倉賀野町から上州日高ですね、江戸川を通って江戸にまで向かっていると。そういう意味では、江戸川は本当に東名高速のように、物流の大動脈でした。

委員長　あとは運河がありますよね。運河もかなりあったでしょう。

博物館学芸員　利根運河ができてからは、かなり短縮されましたし、江戸川の下流の方で船掘川、新川、それから小名木川が江戸幕府によって江戸初期に掘られていまして、それも隅田川に江戸川を直結するために、そういう運河を開削しています。

委員長　いろいろどうもありがとうございました。

教育長 目標集客数はあるのですか。

博物館学芸員 できるだけ多く……。

教育長 せっかくやるのだから、1人でも多くの人に観覧していただいて。3年がかり、5年がかりぐらいで企画したのでしょうか、これは。

博物館学芸員 10周年記念ですので、5年計画で。

委員長 それはどうも、いろいろありがとうございました。

◎その他

委員長 その他は何かあるのですか。

企画管理室長 ございません。

委員長 それでは、次回の教育委員会会議の日程について、事務局の方ではどういうふう

に。

企画管理室長 10月定例会でございませけれども、只今調整を図っているところでございますので、至急調整の上、またご相談申し上げたいと思いますので、よろしくお願ひしたい

委員長 お聞きのとおりでございます。

それでは、ちょうど1時間半ぐらいになりました。いろいろご熱心にご議論いただきましてありがとうございました。

◎閉 会

委員長 以上をもちまして、平成15年の9月定例教育委員会会議、閉会させていただきます。

ありがとうございました。

閉会 午後 4時14分

この会議録の記載が真正であることを認め署名する。

松戸市教育委員会委員長

松戸市教育委員会委員

